

2018年4月3日

マクセルホールディングス株式会社

## ベンチャーの試作支援に特化した「MBC\*1 試作ファンド」への出資を決定

マクセル株式会社(取締役社長:中村 啓次/以下、マクセル)は、このたび、株式会社 Darma Tech Labs(代表取締役:牧野 成将/以下、DTL)が無限責任組合員として管理する「MBC Shisaku 1号投資事業有限責任組合」(以下、本ファンド)への出資を決定しました。

マクセルは、経営ビジョンである「スマートライフをサポート 人のまわりにやすらぎと潤い」に沿い、「自動車」「住生活・インフラ」「健康・理美容」を成長3分野と位置づけて事業展開しています。

今後、IoT やロボティクス、センシングなどの本格的普及が期待できる中、これらの技術動向を的確に捉えて新たに生まれる多様なニーズに応えるとともに、新しい付加価値を提供していくことが重要であると考えています。

DTL は、量産化試作に取り組む国内外のハードウェア・スタートアップ\*2 への投資に特化したベンチャーキャピタルであり、本ファンドの組成後、国内外のスタートアップに対し投資活動を行います。同時に、一般社団法人 京都試作ネット(代表理事:鈴木 滋朗)と協力して、モノづくりスタートアップの試作支援を行っています。

本ファンドへのマクセルの参画は、事業会社として 2 社目となります。これにより、スタートアップが手掛ける IoT やロボティクスなどの新しい技術領域における製品の動向を捉え、マクセルのコアコンピタンスであるアナログコア技術を核としたモノづくり力との接点を拡大し、新規事業領域への展開を図ります。

たとえば、マクセルの主要事業のひとつである電池分野において、スタートアップが提案する新しいデバイスの電源として電池を供給するなど、スタートアップへの支援および協業により、新規事業の立ち上げや事業拡大をめざします。

\*1 MBC: 本ファンドが運営するベンチャーの試作支援事業、Makers Boot Camp の略称

\*2 スタートアップ: 新たに開発した製品やサービスで市場を開拓することを目的とした企業や団体

■出資対象ファンドの概要

ファンド名	MBC Shisaku 1号投資事業有限責任組合
無限責任組合員	株式会社 Darma Tech Labs
有限責任組合員	マクセル株式会社、他 8 社(2018 年 4 月 3 日現在)
ファンド総額	20 億円(予定)
マクセル(株)出資額	1 億円
運用期間	10 年間
投資対象企業	日本および欧米の IoT 関連をはじめとするアーリーステージのハードウェア・スタートアップ

■株式会社 Darma Tech Labs について

会社名	株式会社 Darma Tech Labs (ダルマテックラボ)
代表者	代表取締役 牧野 成将
所在地	京都市下京区
主な事業	シード、アーリーステージのハードウェア企業を対象としたベンチャーキャピタルファンドの運営。ハードウェア・スタートアップへのプロジェクト・マネジメント業務

■一般社団法人 京都試作ネット について

組織名	一般社団法人 京都試作ネット
代表者	代表理事 鈴木 滋朗 (株式会社 最上インクス 代表取締役社長)
所在地	京都市下京区
主な事業	インターネットを通じた法人の開発者／研究者の開発試作、開発工程における「モノづくりソリューション」の提供

以上

---

ニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日時点のものです。

予告なしに変更され、発表日と情報が異なる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

---